

佐渡市



農業委員会 だより

No.32

令和3年3月

編集・発行

佐渡市農業委員会

63-5115

—発行人—

会長 山本 利雄



1/20 農業者等との意見交換会

採算は？ モミガラ処理は？ 担い手は？ 等の意見交換が行われました。

明るい社会を願って一言



会長職務代理者

金田 勝廣（佐和田地区）

令和2年を振り返ると春先に中国の武漢で新型コロナウイルスによる疾病が発見され、世界中に蔓延し、秋以降連日感染者数の更新が報道されておりました。

コロナウイルスの影響で各種イベントの中止等で多くの企業が廃業に追い込まれたり、サービス業は営業自粛等で大打撃を受けていた。逆境をチャンスに生かし、利益を上げている企業も数多くあったようです。例えば見向きもされなかったマスク製造業は供給が間に合わなかった時期もあった。

また、農業関係では、異常気象により、園芸作物は大凶作で、とりわけ豆類は収穫皆無であったが、主要作物である水稻や柿は平年作であった。

反面、冬季園芸作物のキャベツ、白菜等は大豊作のようで、価格の値崩れが心配された。生産面ではコロナウイルスの影響は比較的少なかった。

しかし、令和3年の主食米生産面積は外食産業等の自粛により、米の消費量が落ち込んで前年より約13%も少なくなる予定で、農家にとって大変な一年になるうとしています。

農家は生産することが生きがいでもあり、生産できないというもどかしさは、今日のサービス業の自粛とどこか似ているような気がしております。

コロナワクチン効果で明るい社会を再現してもらいたい。

フルーツ王国「佐渡」



農業委員（中立）
佐藤洋子（新穂地区）

一消費者として農業委員に指名されて以来、会議・視察を重ねてまいり農業に対する理解を深めることができました。

日常生活の中で気付いたことの一つとして、佐渡産フルーツについて述べさせていただきます。

佐渡には意外と思われる果物がたくさんあり驚かされます。

温暖地の特産と認識されている。「みかん」「レモン」希少種の黒イチジク「ピオレソリエス」、寒冷地の「りんご」、「ルレクチェ」「いちご」「さくらんぼ」等々、列挙にいとまのないほど多種多様な果物が生産されています。

「トキの島」「トキ認証米」と並んで「ブルーツ王国佐渡」とアピールし、認知されることを願っています。

保存の効くコンポートやジャムとしても広く流通されることも期待されま

方々の理解を促進する方策を検索して、佐渡農業の更なる振興を祈念しております。

農地利用最適化推進委員拝命
にあたって



農地利用最適化推進委員
海老名邦人（羽茂地区）

かつて奄美大島を訪れた時（20数年も前ですが）地元役場の人が、車で色々な所を案内してくれました。その道中思ったことが「あー、佐渡ではこんな条件の良いところを荒らしておかないのになあ」とつくづく思い、その事を聞いてみると「昔はこのあたりも緑豊かな畑で色々な作物が作られていたんですが、高齢化が進み後継者も育たず、結局耕作放棄地が増えてしまった」とのことでした。

車中ずっと語っていたのが「奄美は佐渡島に次ぐ2番目に大きな島、弟のような島だ」と。

あれから20数年、佐渡の現状は？

今は随分と遊休農地・耕作放棄地が見受けられるようになってきてしまっているのではないのでしょうか？

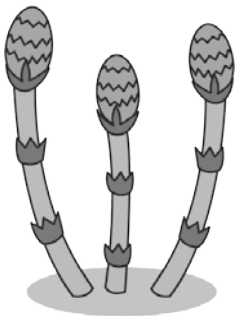
佐渡島は大きな島です。山があり、海があり、豊かな農地があります。ですが現実には後継者不足となつてしまっています。

最終的には農地における集団的営農ということなのでしょうか。

機械の共同購入であったり、共同での防除作業であったりと、個人農家で維持していくには大変なことでも、より有効に活用されるのでは。

地域の座談会等で実際の声を拾い上げ、関係機関で情報共有し、耕作放棄地の解消に結びつけていかなければならないでしょう。

「あそこのばあちゃんの山の畑、きつくてもう出来ないって。私たちのグループで蕎麦でも作ろうよ」いつかそのような会話が普通に聞かれるように、そのためにこそ必要とされる委員であるように心がけていきたいと思えます。



農地。パトロールについて



農業委員
矢渡健一（小木地区）

11月12日、「農地利用の最適化を目指して」を目的として実施されました。

農業委員個々の考えで農地の除外や編入が行われないよう統一したスケールを持ち、また目を肥やすためにも目的があると理解しました。

農地。パトロールに初めて参加して、農地に対する考え方が種々あることに驚きました。

ほ場整備がされているか。農振地区か。水利の便は、農道の便は、周辺農地との関連性は。

また非農地と判断する場合にも、森林か原野か、あるいは進入路の荒廃の程度、周辺農地の状況等色々と考慮しなければなりません。

1日の農地パトロールでしたが、勉強することが多くありました。

農地を多面的に捉えるだけではなく、関連する農地法にも通じなければならず、農業委員の責任の重さをつくづくと感じました。

農地パトロールに参加して



農業委員
古屋野勝（赤泊地区）

11日12日に農地パトロールが実施され、金井・佐和田・真野地内を巡回しました。

農地パトロールは、農地の利用促進につなげるため、

- ① 地域の農地利用の確認
 - ② 遊休農地の実態把握
 - ③ 違反転用の発生防止・早期発見
- の3点を重点に情報収集を行うものです。

農地の有効利用では、規模拡大のために借り手の付いた田を視察しました。高齢化などで農地を維持するのが難しい昨今、規模拡大を目指す農業者の存在は、佐渡の農業にとってありがたいことだと思います。

一方、耕作地まで車が通れないなど条件が悪くて耕作を続けられない農地が増えています。

中山間地域では、高い所の田んぼが作られなくなると下の田んぼで水が細り下の田も耕作できなくなっています。

まいます。

中山間地等直払制度を利用するなどして田畑のもつ多面的機能を維持していくことが必用と感じました。

農地を農産物の生産以外の用途（住宅・業務等の施設または道路、山林など）に変更する場合は、農地法に基づき許可または届け出が必要となります。

これは、自分の所有地であっても当てはまるので注意が必要です。

農業委員・農地利用最適化推進委員が地域と連携し、農地の有効利用と併せて遊休農地・耕作放棄地の解消、また無断転用の防止に努めていきたいと思います。

新潟県農業委員会大会に参加して



農業委員
渡邊実（金井地区）

去る11月19日に三条市を会場に農業委員会大会が開催されました。

県下の農業委員会関係者が一堂に会し、地域に根差した活動、農地利用の最適化に向けた推進活動等を重点に置き組織としての取り組み方、現状を踏

まえた活動など地域の実態に応じた対応など目に見える活動の展開を図ることを目的にする大会だと思いました。

昨年は夏の酷暑にくわえコロナ感染症など体験したことのない出来事が起こりました。

今大会も参加人員の制限など、色々な所で感染症の影響が出ています。

経済的ダメージに伴い農産物の価格の低下で離農、農地を手放したいという声も聞かれまた、近年の天候不順での減収、減益も要因の一つかと思われます。

今後も生産者の高齢化、減少に伴い耕作放棄地の増加が懸念されます。耕作放棄地を増加させないためにも地域での担い手の育成、確保、農用地の集積、集約の促進、生産基盤の拡充等など農地利用最適化の環境作りや情報の共有、関係機関との取次ぎなど手助けになればと思っています。

大会での講演、取組事例、議案等を参考にし、今後の活動の役に立てられればと考えています。



全国農業新聞

毎週金曜日発行 B3版 8～10頁建

購読料：月700円〔送料、税込み〕

電子版

記事内のキーワード検索が可能です。
電子版は全国の地方版が閲覧できます。

農業者必読の農政専門誌です。
地方版で身近なニュースもお伝えします。

全国農業新聞のご案内

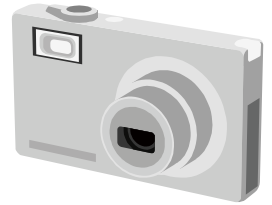
- 総合ニュース・農政・解説面：様々な問題にじっくり・分かりやすく解説します。
- 経営面：旬の情報で経営を支援します。
- 暮らし面：くらしに役立つ情報を提供します。
- 地域・農業委員会面：地域の元気の秘訣を取りあげます。
- 学習面：農業の面白さや楽しさを子供たちに伝えます。
- 地方面：皆さんの地域の身近な情報も満載です。

カメラ スケッチ



10月20日 農政振興部会
食味の食べ比べ

コシヒカリ、こしいぶき、
コシヒカリ・こしいぶき 50:50
で食べ比べました。



11月12日 農地パトロール
金井地区・佐和田地区・真野地区をパトロール



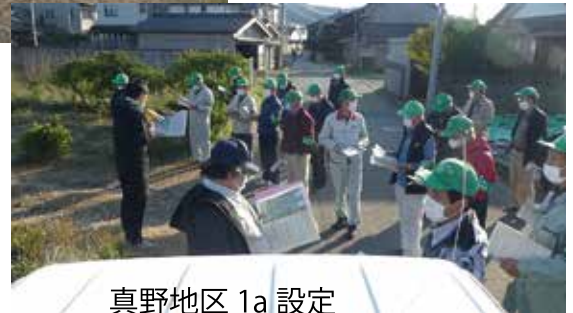
真野地区 荒廃状況



佐和田地区 転用



金井地区 転用



真野地区 1a 設定

令和2年は新型コロナウイルス禍で、日常生活はもとより社会経済活動にも甚大な影響を及ぼし様々なイベントや活動が中止となりました。今は一刻も早くコロナが収束し、生活が正常になることを願っています。

そして私たちはこれから地域の実態や声を聞き、農地利用の最適化、持続可能な農業経営に向け、取り組みを進めてまいります。

佐藤 洋子（小木）

編集後記

知って得する！農業者年金



農業者の方は、国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」に加入して安心で豊かな老後を

国庫補助で手厚い支援！

1万円の自己負担で2万円の積み立てが実現！

早く加入すれば、国庫補助が長く受けられる

自ら支払った保険料は、
全額社会保険料控除の対象！